三月三十一日

常磐毎日新聞

日刊

定價一部金貳錢　金五拾錢　郵税五厘
廣告料五號十二字詰一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　川崎多治
福島縣石城郡平町長橋町三五番
發行所　常磐毎日新聞社
印刷所　常磐毎日印刷株式會社　電話六二〇番

郷土の花　山崎伍長（四）

飯野小學校生徒合作

中隊長「何だ……『こんなつまらぬものばかりでまことにすみませんが私は自分が不甲斐ないために其の日の生活にも困つて居る失業者であります。滿洲で働いて居る軍人の方の苦勞を思ひ出す度に何時も感謝の外はありません。丁度町内で慰問袋を發送するといふうわさをきゝまして、わずかばかりの品物を買ひましたが私にはこれ以上買ふ金がありません、それでこれだけではあまり少ないのでこの古いハンカチを私のつかつた古いハンカチを誠におそれ入りますが、奇鹿にせんたくをしたものでありますから、どうぞお許し下さい』

ウム……我々戰士を思ふ赤誠があふれておるなア

山崎伍長大切にして置けよ。

山崎「ハイ　大切にしておきます」

中隊長「銃後の同胞も斯の如しだ……

死んでも未練はないなア

山崎他一同「未練はないのであります」

一同「大いに戰つて恩に報いたいと思ひます」

中隊長「一つ軍人は忠節を盡すを本分とすべしだ……忘れないだらう、皆で元氣にやつて見よう」

一同「（ゆつくり）一つ軍人は忠節を盡すを本分とすべし。

凡そ生を我が國にうくるもの誰かは國に報ゆるの心なかるべき況んや軍人たらんものは此の心の固からでは物の用に立ち得べしとも思はれず、軍人として報國の心堅固ならざるは如何程技藝に熟し學問に長づるも猶愚人に等しかるべし、その隊伍も整へ節制も正しくとも

ノート

數の子は米の磨ぎ汁に浸けておくとエゴ味が抜けて味が良い磨が汁は度々取替へぬ方が早く軟かくなる

忠節を存せざる軍隊は事に臨み烏合の衆と同じかるべし。

折々國家を保護し國權を維持するは兵力にあれば兵力は是國運の盛衰なることを辨へ世論にまとはず、政治にかゝはらず只々一途に己が本分の忠節を守り義は山嶽よりも重く死は鴻毛より輕しと覺悟せよ、其の操を破りて不覺をとり汚名をうくるなかれ！

中隊長「止め　其の覺悟ぢや、忘るゝな」

（傳令幕蔭から走り登場銃を斜めに脊負つて）

傳令「第六中隊長殿（敬禮）聯隊命令であります。

―明日の献立―

【朝】佃煮―青板昆布　佃煮

【晝】ほつきめし―ほつきくこの葉　油揚げ

【晩】にしめ―里芋　こんにやく　竹の子

中隊長「何？……（封を開いて默讀）

よし、時機到來ぢや……おゝ……聞けよ。（讀む）

『ハルピンに於ては吉林軍反吉林軍の交戰中なり聯隊は邦人保護の目的を以てハルピンに向ひ出動せんとす、諸士は益々奮勵自重、以て軍旗の名を發揚せんことを期せよ』

「ウ……矢野は生還を期せんぞ　（刀を抜く）

最後ぢや！　中ば右向け右！伊勢の大廟皇居御兩親に向つて最後の敬禮捧げ……銃

鹽豚（コーンポーク）
肉蒲鉾（ソーセージ）
田町　三二三屋

新學期の裁縫用具は
ハシモトヤへ！
女生用カバン
澤山入荷しました。……
田町　ハシモトヤ糸店
電十四番
（少年店員募集）

美容術見習生募集
女子にも生活の安定は腕に職
◎年齢十六七才以上で御希望のお方は至急御申込み下さい
尚御經驗ある方にて御申込み希望のお方には特に御相談申上げます
平町白銀町十一番地
高橋輝子
電話六三八番

專門
……◇……
産婦人科
花柳病科
……◇……
◎入院隨意
井坂醫院
平町田町　電話五五九番

かまぼこ製造
儀式用
お惣菜用
さつま揚
吉原揚
平町一丁目
吉原寅
電話一四一番

耳鼻咽喉科專門
氣管食道科
平南町（電話一七〇番）
大和田醫院

特價一臺金參圓五拾錢
家庭裁縫の簡易化
世界なきに
愛國ミシンの出現
一般家庭に於てミシンの便利重寶なる事は皆さんの御承知の通り其の需要を要求してりましたが從來のミシンは數十圓數百圓の高價の爲め一般家庭用として購入出來ませんでしたが今般斯界の大家田島先生の數ヶ年の苦心研究によつて斯く大衆向の愛國ミシンが完成され然も突飛的の定價にて從來のミシンと遜色なく便利で各御家庭には必ず常備として一臺なくてはならぬ樣になりました。本機の使用方法は極めて簡單で御子樣方でも三十分位の練習で自由に和洋の御仕立が出來ます（御注文は代引又は前金に願ひます。送料實費）
◎外交員募集
石城郡
多賀郡下代理店
平驛前
マルカ
店主　加藤正保
電話三二番

肥料相場漸落

▽……需要の最盛期に

▽……取引が頗る閑散

平地方の肥料相場は非常な低落を示して居り年始以來漸落を辿る一方で一月頃に比べると最近では各肥料平均二割程度の暴落を示して居るが例年ならば三月が需要の最盛期であるのに本年は取引閑散の狀態にあり不況の深刻さを反映して居る

電氣協會

植田で總會

本縣電氣協會春期總會は來月二十二日午前九時より植田小學校に於いて開催する事に決定したと

農家經濟の座談會を平町で

平町農會では來月三日午前十時より役場會議室に於いて町内農業關係者及び郡農會吏員等を參集して農家經濟の座談會を催すと

磐女編入

合格が三名

磐城高等女學校に於ける本年度編入試驗は昨日午前九時より執行されたが應募者二年十六名、四年二名の内左の三名が合格本日發表された

二年關昌子　叶多嘉子

四年小岩トミヱ

農林大臣通過

後藤農林大臣は仙臺市へ向ふ途中今朝午前三時二十分發列車にて平驛を通過した

赤井農實組合

石城郡赤井村字三島部落では此程農業實行組合を組織し來月四日午後一時より田久重雄氏方で組合發會式を擧行する

砂防工事視察

平營林署内村署長は本日目下施行中の大浦海岸砂防工事の視察に出張した

農民の血涙史（9）

鮫川堰を踏査し往時を想起

香坂知事は云ふに『貴方は本日の縣會で鮫川水利の問題を質問さるゝと聞くが鮫川水力との關係は自分として初耳なり

ると共に江筋の沿革に就いては全然知悉して居らず、從つて御質問に對し、充分滿足を得る答辯が出來ない故に今後自分は此の事態を仕細に研究し必らず農民側に有利な解決を

見る事の　出來る樣に努めるから一時質問を見合して貰ふ譯に行くまいか』との事であつた。前夜高

農家の主婦達が視察團を組織し

平町に繰り込んで來る

既報石城郡神谷村に新設された產業婦人會では農家主婦の經濟思想普及の爲め毎夜同村補習學校に於いて經濟智識の講習を受けて居るが更らに四月上旬頃會員百餘名の視察團を組織して農事試驗場平町團体事務所區裁判所警察署等を歷訪すると

磐中卒業生の進學

磐城中學校卒業生遠藤正美、水野茂松、志賀勳の三君は横濱高等工業學校へ同高岡文夫君は東京高等商船學校へ同小野一雄君は東京帝大へ夫々合格された

津波の狀態を見て海岸の植林費增額

平營林署の匡救工事

今回の三陸地方の津波が海岸の松林に依つて緩和されたに鑑み平營林署では管内海岸地方の植林を考慮し八年度分匡救工事二萬圓を更らに一萬圓增額すると

刑事が古川縣議から聞いた質問の内容を直ちに縣知事に報告したものであるらしい、其處で古川縣議は從らに事を荒立てる必要を認めないと共に

縣が解決　する處存を確め得れば充分なのであるから、縣知事の此の懇篤な願望を容認し『然らば貴意に添ふ事に致しませう』と縣會に於いては一切鮫川問題に觸れず沈默に終始した縣會終了後、知事の

言質を握　つて居る古川縣議は幾度か縣廳に解決を督勵し、縣も又調査の歩を進めて居た處、突然知事の更迭があり

縣廳内部　の同問題に對する意響は、元の白紙の姿に立返つて終つた（續く）

平映畫界

◈平館　日活時代劇高田浩吉　飯塚敏子主演和「蘭陀囃子」松竹現代劇竹内岡　八雲主演「涙の瞳」日活時代劇片岡千恵藏　高津慶子主演「刺青奇偶」

◈世界館　新興キネマ時代劇「忠臣藏」不二映畫鈴木傳明　高田稔　佐久間妙子主演「金色夜叉」

平町人事

回出生

△舊城跡一二　大沼清藏氏四男喜一

△月見町二六　栃内賢五郎氏二男豊

△長橋町五二　武井常右衛門氏三女とみ子

△立町九六　渡邊元吉氏長女伸

△柳町八　渡邊洋氏三女チヨ

△一丁目二九　佐藤信春氏三男弘信

△新川町二五　樋口小彌太氏二男卓彌

△立町五三　大枝守氏三男茂三

△三丁目二八　横山萬藏氏四女トシ子

△新川町八　小川榮作氏二女喜代

回婚姻

△二丁目一六　長谷川豊吉氏（四九）若松市通寺町五二長谷川アキ（二八）

回死亡

△田町一九　坂本伊三郎（四三）

看護婦急派の求めに應じます

平町南町

平看護婦會　電話三〇六番

磐城共濟病院案内

院長　醫學博士　石山謙郎　自宅（電話一二四番）

內科　醫學博士　石山謙郎

小兒科　醫局員　佐久間粹郎

外科耳鼻咽喉科　醫學博士　桂重次

皮膚科　醫學士　有馬勇二郎

產婦人科　醫學士　五十嵐雄二

X光線科　醫局員　佐久間粹

衛生試驗所　醫學博士　石山謙郎

藥局　技師　工藤慶造

（藥劑士　高後利雄　吉本孝平）

◎診療時刻午前八時より午後五時迄　但急患は此の限りに非ず

平町　磐城共濟會　電話六四一番

御入學、御進級、御卒業ノ

プレセントニハ是非御時計ヲ

驛前通リノ星野時計店ヘ願マス

三月廿八日ヨリ四月廿六日迄廿日間

記念トシテ正札ノ一割引特賣

御修繕ハ大勉强　粗景品進呈

セメント　磐城セメント株式會社

壁用材料

コールタール　代理店　西村屋藥舗

ペンキ塗料　平町二丁目　電三

板ガラス

中村齒科醫院

平町鍛冶町七

縣議石川德壽氏が ヤス子夫人を離緣 ▽…訴訟を提起して勝つ

六年前の家出を理由に

石城郡湯本町大字湯本字吹谷九十七番地縣會議員石川德壽（五三）氏は永野辯護士を代理人とし夫人ヤス子（五二）を

相手取り平支部に提起した離婚請求の口頭辯論が本日午前九時中島判事係り關口竹内兩判事陪席永野辯護士列席の下に開廷され中島判事より『原告と被告を離婚す訴訟費用は被告の負擔とす』との判決言渡があつた石川縣議は明治三十五年七月二十一日前記ヤス子夫人を迎へたが夫人は昭和二年五月中旬頃突然家出して行衛を晦したので百方手を盡し捜索したけれ共今日迄判らず其

生死の程さへ知れないので己むを得ず此の訴訟を起すに至つたのであると二圓を三陸地方罹災者に送つて下さいと平町役場に届出た

消防幹部が 兵式訓練を受く

役員大會の當日に

既報平署管内消防組役員大會は來八日開かれるが當日午前八時より平第三小學校庭に於て磐中平商兩校配屬將校の規律訓練を受け同十時よりは平署會議室の協議會に移り春期消防檢閲其他に就いて協議し小田部平署長の訓示あるが渡警察部長を始めとして郡内各町村長等多數出席する筈

平鄕軍役員會　平在鄕軍人分會では昨卅日午後六時半より丸友ホール樓上に役員會を開き本年度豫算及び事業等に就き協議した

合格記念に 震災地へと

同級生三名役場へ

平町搔槌小路三〇阿部トシ子、田町三五岩本文子、鷹匠町八伊勢美津子の三名は平第二小學校尋常科六年の同級生だが今度磐城高等女學校の入學試驗に合格した記念として小遣錢を集め金

飲食店が一纏めに 特定地へ移轉

磐炭と敷地交渉

湯本が先鞭をつけて

石城郡湯本町の飲食店營業者間では豫てより町内に散在する營業者を一纏めに同町字吹矢地内舊磐城炭礦社宅跡へ移轉し此處に二業地の一廓を設けんと目下磐炭側と敷地の讓渡に付き交渉中であると

役場吏員 一部更迭

伊坂氏退職

平町役場税務主任伊坂道雄庶務係薄葉健一郎、水道巡視係鈴木四郎の三氏は家事の都合に依り辭表を提出中の處此程退職と決定後任として税務主任に江尻孝平庶務係に馬目信次の兩氏を配し水道巡視係は當分一名欠員の儘に置くらしいと

ノロケの材料を

返すのが惜しくなる

石城郡小名濱町字竹町一三佐川藤右工門方雇人岡部鐵雄（二一）は去る廿日同町字橋本三二飲食店相澤キミ方抱酌婦前田福子と馴染の仲である處からノロケの材料にしやうと福子から金側腕時計を借受けたが其後返さないので平署に訴へられた

裁判所だより

▼石城郡内鄕村大字宮字金坂五十八番地大工佐川德之助（四〇）は無免許にて去月二十七日植田町中根清太郎長女セキ外一名を愛知縣方面に年期奉公に周旋し手數料として各十圓宛を受取り營利職業紹介取締規則違反として罰金七十圓に本日平區裁判所に於て略式命令を以て處分された

▼同郡湯本町大字湯本字日渡六十番地坑夫赤坂幸一（二一）が昨年十一月頃より本年二月迄の間同町字上川粉目龜喜方店内に侵入し衣類を窃取した外内鄕小名濱町等に於て價格五十餘圓の窃盗を働いた事件の公判は本日平區裁判所に於て午前十時より中島判事係り小林檢事立會の下に開廷され事實取調べの上檢事より懲役二年求刑あり判事より即決懲役二年を言渡された

女房の行衛は

石郡勿來町字酒井居住坑夫笠井政雄の妻スミ（二九）は本月廿四日夫婦喧嘩の末次女フク（四〇）を連れて無斷家出したが内鄕方面に居るらしいからと亭主から平署に捜査方を願出た

十三ヶ所に 申込七十四

―賣店設置申込み―

既報松ヶ岡公園の賣店設置申込みは今卅一日を以つて締切るが本日午前迄の申込數は十三ヶ所に對して七十四名に達して居ると

回 人を求める方

△兒守　十四才　尋卒　仕着外年十圓（飯野村某）

△下駄見習工　十六才　高卒　仕着小遣（平町某）

△齒科技工見習　十六才　尋卒　仕着小遣（平町某）

△挽物工見習　十六才　尋卒　仕着小遣（平町某）

回 職をる方求め

△紡績工　十六才　高卒　給料面談（平町某）

△コック　十八才　高卒　給料面談（玉川村某）

△事務員　二十六才　高卒　給料面談（平町某）

△機械工　三十才　高一修　給料面談（内鄕村某）

△雜夫　五十六才　尋三修　給料面談（平町某）

平職業紹介所報告

JOAK 明日のラヂオ

仙台放送局

一日

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間 お話「蒙古」陸軍歩兵少佐 下永憲次

▼後六、二五 講演

▼後七、三〇 時局特別講演 商工大臣 中島久萬吉

▼後八、〇〇 管絃樂新交響樂團練習所より中繼日本放送交響樂團指揮ニコライシフエルブラット

▼後八、五〇 連續講談「水戸黄門道中記」終席田邊南龍

▼後九、三〇 時報 全國ニユース 氣象通報 番組豫告

▼後九、五〇 日本棋院大手合績戰

明日の部

▼前九、一〇 料理獻立

▼前九、四〇 運動競技「第十回全國選拔中等學校野球大會狀況」

▼前一〇、〇〇 淺草寺御開帳法要狀況 淺草公園淺草寺本堂より中繼 導師淺草寺貫主大森亮順外一山大勢

▼後〇、〇五 和洋合奏 松竹管絃樂團指揮島田晴譽

▼後二、〇〇 家庭大學講座「維新の大業と婦人の力」維新史編纂官 藤井甚太郎

▼後六、〇〇 子供の時間 童話劇「四月馬鹿の客」胡蝶座

▼後七、三〇 時局特別講演 大藏政務次官 黑田英雄

▼後八、〇〇 吹奏樂 陸軍戸山學校

▼後八、二〇 放送舞臺劇「桃山譚」中村吉右衛門一座

氣豫報

今晩は北東の風雨模樣明日は北東の風曇り

美味！芳醇！
宗正らひた
山崎合名會社
電話一〇番

木村外科醫院
平町五丁目橋際
電話三〇九

豪傑鄭芝龍

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫
佐々木見山

第三百三席

二人を引渡す

菊地大六は曲馬の太夫樋口屋の手代藤助に百兩持つて參つたならば小きんに小兼を渡して遣はすと申した百兩は大金、何うしたものかと藤助は考へてゐる、この時に大六は道場より小きんと小兼に繩をかけたまゝ連れて來たが

大『コレ、藤助二人は此處に居るぞ百兩だせば直に引渡す其金が出來ぬとあらば二人は首にして了ふ』

それを聞いて小きんが

小きん『藤助さん、山本さんと太夫元に話をして百兩持つて來ておくれよ』

藤『ヘエ、何しろ百兩は大金でございますから太夫元はそれだけの金を出すか何うだか、山本さんとしても百兩都合するには五日や十日では出來ますまい、まア兎も角も歸つて話をして見ませう何卒菊地先生茲十日ばかりお待ちなすつてくださいまし』

大『イヤ十日猶豫いたすことはならぬ、三日待つてやる三日の間に出來ずば此の二人を首にするぞ』

と云つた時に小きんと小兼を道場に監禁して置いたが、すると三日目に藤助が出て來て

藤『菊地先生、どうぞこれでまけてくださいまし』

と五十兩出した

大『百兩の半額だナ、よしそれでは小きんだけ渡してやる後金五十兩持つて參つたならば、小兼を渡してやる』

藤『それは困りますなそんなことを云はないで二人助けて下さいまし』

大『それでは貴樣の其カルメラの如き奇なる顏に免じ二人を引渡してやる』

藤『其奴は有難いことでございます、これで私も男になれます』

大『なほ貴樣に今迄この事に就て盡力いたした其の禮として五十兩遣はす』

これを聞くと藤助飛び上つて喜んだ

藤『有難いことでございます、今迄先生は判らぬことばかり云ふと思つて居りましたが、流石はお武士恐れ入りました、惜げもなく五十兩くださるとは出來ねえ事でございます、花は櫻木人は武士實以て感心いたしました、ではこの五十兩はお貰ひ申して置きます』

と手を出すと大六はピシヤリと打ち

大『まて〳〵この五十兩は俺が受取り置く殘る五十兩は太夫元から受取れ其れは貴樣に遣はす』

藤助は今度は驚いた

藤『なる程、これはくれるは當然花は櫻木人は武士とは云はねえ、恐ろしい武士だなまり武士だ猫でなければ喰はねえ』

大『サ、戻れ、二人は引渡してやるぞ』

小きんと小兼の繩を解いた、藤助は二人を連れて

藤『デハ先生、これで御免を蒙ります』

大『途中氣を付けて參れ』

小きん『先生いろ〳〵御厄介になりましたお蔭樣で痛い思ひをいたしましたいづれ此の御禮には上りますよさアかねちやん行かう』

と腕をさすりながら有馬の屋敷を出て赤羽橋まで來ると、こゝに待つて居たは山本克己

山『驚いたらうな』

小きん『山本さん妾達はひどいめに會つたよ、二日ばかり縛られて居た』

山『それは氣の毒千萬さア〳〵此の駕に乘れ』

と二人を駕に乘せて山本

ふかも知れませんさうなればお前さん方は首になる茲千萬に一萬の兼合ひまゝいづれ二三日中に來ますが、それ迄まつてゐて下さいまし』

と云つて藤助は戻つた、

菊地大六は例の如く小きんと藤助が附添つて本所一ツ目に戻つて來たが小きんも小兼もこれから七日程床に就きました、此方は菊地大六、松崎采女と渡邊金彌を呼び五十兩受取つた、是れで一日愉快に遊ぶかなどゝ云つてゐる

松『先生は策士でございますな』

大『時に貴公に賴み度いことがある、是非共此事は承知して貰ひたい』

松『それは何ういふことでございますか、先生にはお世話になつて居ります手前の身にて出來ることならば何なりとも致します』

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雜誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
電六三〇番
申込次第（規則書進呈）

御贈答品
磐城名産
鯉料理
魚閂屋
最優大日本生命平代理店
志賀盛榮
平四丁目　電二一三番

櫻花廣告燈募集に就て

例年の通り平の花をより以上美化し町の繁榮を謀り度主催致しました何卒多數御申込を願ひます

一・殊に本年は公園に假ホームを設置尙平藝妓連の新曲手踊等にて觀客を歡迎する筈ですから廣告として一層効果が有ります

一・當組は特に左記破格料金にて奉仕致します

岐阜提灯　壹燈ニ付　金壹圓五拾錢
六角雪洞　壹燈ニ付　金貳圓貳拾錢

一・本廣告燈は櫻花滿開の頃を見計ひ十日間點火致します

一・募集締切は四月二日

主催　平消防組
後援　平町役場

成田山大護摩修行
團体募集

一・四月三日　午前七時二十五分平驛發
四日　午前成田解散

一・會費　金八圓五十錢
但片道汽車賃、車中晝食費、成田宿泊及茶代祝儀大護摩修行費箱札代、一等坊入料及祝儀、其他解散迄の諸費一切を含む
（準備の都合あり至急御申込みを乞ふ）

成田山大新榮講平講中講元
三月吉日　井上貞治郎
平・五丁目